

## リチウムイオン電池を含む小型家電は「危険・有害ごみ」で!

クリーンセンターでは日々、市内から集められたごみを安全に、かつ安定的に処理しています。

近年、電子タバコやモバイルバッテリー、スマートフォン、タブレットなど、リチウムイオン電池を使用した製品(小型家電)が数多く販売され、それに伴いごみとして廃棄される量も増加傾向です。

リチウムイオン電池や、それを使用した小型家電を燃やさないごみとして出すと、ごみ処理の際に発煙・発火の原因となり大変危険です。発煙・発火防止のため、分別の徹底をお願いいたします。



▼携帯電話、モバイルバッテリーなど  
▼タブレット

燃やさないごみの中に入っていた小型家電。本体から電池が出せないため、燃やさないごみとして出していることが予想されます。

## 活動報告

### クリーンセンターの安全を見守る

クリーンセンター運営協議会 会長 高橋 豊

運営協議会は、クリーンセンターでごみ処理が適切に実施されているか監視するために、周辺3団体(現在は3地域4団体)と市で昭和59年(1984)に発足しました。これからも運営協議会は「クリーンセンターの監視役」としての役割を果たしていきたいと考えております。みなさまのご理解とご協力の程をよろしくお願いいたします。

### 2022年度 運営協議会委員

会長/高橋 豊(北町五丁目町会)  
副会長/根岸 泰広(緑町パークタウン自治会)  
会 計/萩尾 昌枝(緑町二丁目第2アパート自治会)  
 藻谷 征子(緑町三丁目町会)  
会計監査/島森 和子(北町五丁目町会)  
村井 寿夫(北町五丁目町会)  
興相 信子(緑町パークタウン自治会)  
狩野 耕一郎(緑町三丁目町会)  
齊藤 武子(緑町三丁目町会)  
朝生 剛(環境部長)  
田中丸 善史(クリーンセンター担当課長)

\*編集後記\* 「町田市バイオエネルギーセンター」を見学し、「ごみになるものを作らない、燃やさない、埋め立てない」という町田市の基本理念をしっかりと感じる事ができました。私たちもごみ減量をはじめ、武蔵野市「2050ゼロカーボンシティ」に向けての歩みを前に進めていきましょう。(興相信子)

## 飲食店などの食品ロスを減らし、生活用品のリユースを進める取り組み

### 事業者と協力して食品ロス削減とリユース促進

武蔵野市では、フードシェアリングサービス(まだ安全に食べられるのに捨てられる食品と消費者とを組み合わせる食品ロス削減「TABETE」)を運営する(株)コーキッキング、及びリユース等情報サイト「ジモティー」と、4月1日に協定を締結しました。

お互いに協力して広報や啓発を行うことで、飲食店・小売店内の食品ロス削減、リユース活動推進と循環型社会の形成への寄与を図ります。

### リユース掲示板「むさしのエコポ」設置場所の拡大

「むさしのエコポ」は、不要になった生活用品(家具、家電、レジャー用品、自転車など)の再利用を推進し、「譲ります」「譲ってください」の情報を交換するための掲示板です。令和3年度末時点で市内15か所に設置されていましたが、子育て支援施設やコミセンなどを中心に、7月末までに市内合計33か所に拡大し、リユース活動をさらに促進していきます。

### ● 2021年度 運営協議会 決算 単位=円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	3,190
その他の収入	1,789	広報費	234,534
		事業費	102,542
		会議費	0
		備品費	0
		交際費	0
		予備費	0
計	1,001,789	計	340,266
		市への返還金	661,523

### ● 2022年度 運営協議会 予算 単位=円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	254,000
		事業費	746,000
		会議費	5,000
		備品費	40,000
		交際費	5,000
		予備費	0
計	1,060,000	計	1,060,000

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会  
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5  
武蔵野クリーンセンター内  
電話: 0422-54-1221  
●武蔵野市ホームページ  
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

\*この広報は、再生紙を使用しています。

# 武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 81

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは  
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された  
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

## 第13回エコマルシェ開催 エコマルシェの新しい取り組み

令和4年6月19日(日)に第13回エコマルシェを開催しました。エコマルシェは、環境にやさしい暮らしについて発信する武蔵野クリーンセンターのイベントです。コロナ禍で以前のような規模で開催できませんでしたが、今回は感染症対策を徹底し、内容も工夫して約2年ぶりに地域のお店の出店を行いました。

### ●出店に大勢の来場者

地域の8店舗が出店し、コミュニティスペースで地元で獲れた野菜販売や工作などを行いました。来場者数は合計514名でした。施設前を通りがかった人にも興味をもってもらえた結果、非常に多くの方々の参加がいただけました。

### ●楽しい工作ワークショップ

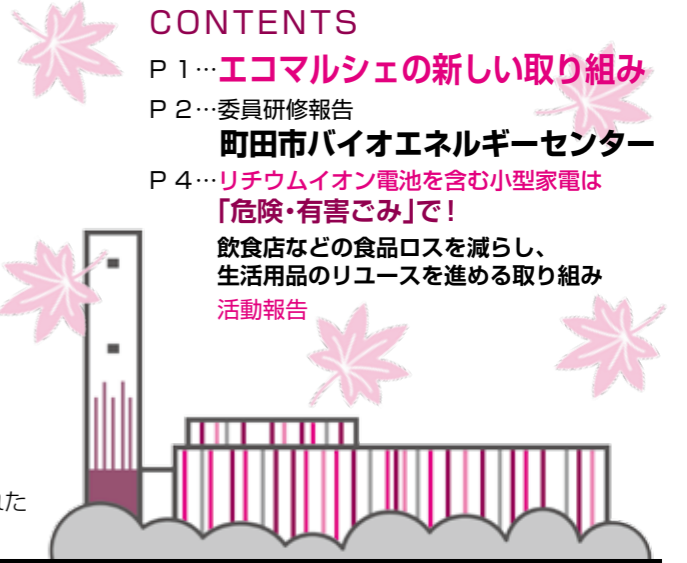
2階見学者コースでは、雑誌を使って手さげ紙バックを作るワークショップを行いました。子どもたちは講師の指導を受けながら、古雑誌で紙の手さげバックを作り、そのまわりにチラシや包装紙、リボンなどの廃材ですてきな装飾を施しました。



コミュニティスペースでにぎわう出店の様子

## CONTENTS

- P 1... **エコマルシェの新しい取り組み**
- P 2... 委員研修報告  
**町田市バイオエネルギーセンター**
- P 4... **リチウムイオン電池を含む小型家電は「危険・有害ごみ」で!**  
飲食店などの食品ロスを減らし、  
生活用品のリユースを進める取り組み  
活動報告



### ●施設を紹介する新しい取り組み

#### \*合同施設見学ツアー

同じ敷地内の2つの施設をより知ってもらうために、クリーンセンターの屋上ガーデンとむさしのエコreゾートの両方をめぐる見学ツアーを行いました。

参加者は、まずクリーンセンターからデッキを通過してエコreゾートに行き、ガイドからエコreゾート建設の経緯やその活動、建物について説明を聞きました。その後、芝生広場を通り生ごみ堆肥を作るコンポスト、クリーンセンターの屋上ガーデンを見学しました。

1日2回のツアーはどちらも定員に達し、2つの施設を一緒に見学することで、それぞれの施設の役割や取り組みを知ってもらう機会になりました。

#### \*磁選機のしくみを学ぶ実験コーナー

不燃・粗大ごみを処理する際に、磁石の力でごみの中から資源となる鉄を取り除く磁力選別機(磁選機)のしくみを、動画と模型の実験で紹介しました。模型のベルトコンベアの上に金属やプラスチックなどを入れ、ハンドルを回すと、模型の磁石に鉄だけがくっついて、鉄と鉄以外が分別される様子を見ることが出来ます。実験の参加者たちは鉄が磁石にピタッとつく様子にくぎづけで、何回もハンドルを回して夢中になる人もいました。また、実験を通して不燃・粗大ごみの分別方法がよくわかったという声もありました。

エコマルシェでは、今後もごみ処理のしくみを楽しく紹介する取り組みを行っていきたく考えてます。

■WEBページ「みんなのエコマルシェ」を公開しています。  
<https://ecomarche.musashino-clean-center.com/>



## 委員研修報告

令和4年6月28日、武蔵野クリーンセンター運営協議会の委員研修が行われ、町田市バイオエネルギーセンターなどを視察しました。

### 首都圏初のバイオガス化施設を併設

## 町田市バイオエネルギーセンター

クリーンセンター運営協議会委員 狩野 耕一郎・村井 寿夫

### 地域や環境を守る3つの基本理念

町田市バイオエネルギーセンターは、今年の1月に稼働開始した新しい施設です。

この施設は、「町田市ごみゼロ市民会議」の提言（2007年11月）に基づいてつくられています。会議には市民124名が参加し、280数回の会合と実証実験が行われました。

●ごみになるものを作らない

3つの基本理念

●燃やさない

●埋め立てない

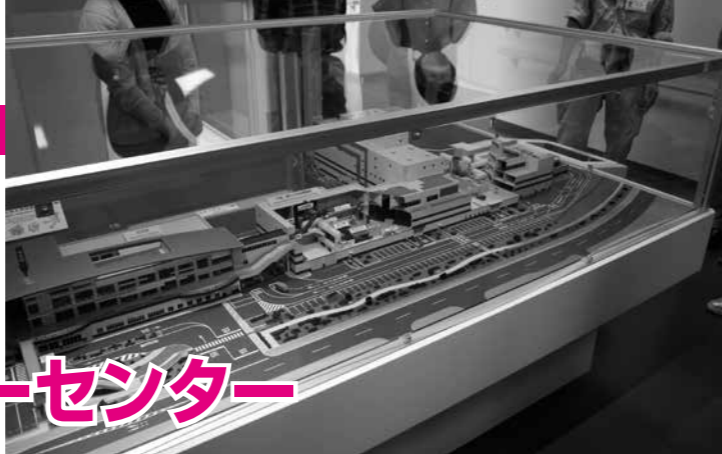
町田市ではこの3つの基本理念のもとに、徹底したごみ減量と資源化を目指し、可燃ごみ焼却施設、不燃・粗大ごみ処理施設のほか、首都圏で初めてバイオガス化施設が併設されました。非常に広大な敷地に建つ大きな建物で、正面から見た横幅は200m、各処理施設を回遊する通路も幅約10mもあります！

### バイオガス化施設と不燃・粗大ごみ処理施設

バイオガス化施設とは、生ごみにバクテリアなどの微生物を作用させて発酵を促し、発生するガス(メタンガス50~60%、残りは二酸化炭素)を取り込み燃焼させて生ずる熱エネルギーを利用して発電を行い、電力として利用する施設です。

町田市バイオエネルギーセンターと武蔵野クリーンセンターを比べてみると…

項目	町田市バイオエネルギーセンター	武蔵野クリーンセンター
人口/市の面積	約43万人/71.55km <sup>2</sup>	約15万人/10.98km <sup>2</sup>
施設の敷地面積	77,000m <sup>2</sup>	約17,000m <sup>2</sup>
延べ面積	工場棟 約17,000m <sup>2</sup> 管理棟 約6,100m <sup>2</sup>	工場棟 約8,900m <sup>2</sup> 管理棟 約1,595m <sup>2</sup>
建物の階数/高さ	工場棟：地下2階、地上5階建て、高さ約28m 管理棟：地上4階建て高さ約21m 煙突高さ100m	工場棟：地下2階、地上3階、高さ約15m 管理棟：地上2階、高さ約10m 煙突高さ59m
施設規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶熱回収施設(焼却施設) ストーカ炉 258t/日(129t/日×2炉) 蒸気タービン発電機最大出力：6,220kw</li> <li>▶バイオガス化施設 乾式 高温メタン発酵(50t/日) バイオガス発電機最大出力：250kw×4基 (1基は予備)</li> <li>▶不燃・粗大ごみ処理施設 機械選別・手選別 47t/5時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶熱回収施設(焼却施設) 全連続燃焼式ストーカ炉 120t/日(60t/日×2炉) 蒸気タービン発電機最大出力：2,650kw ガスタービン発電機最大出力：1,500kw</li> <li>▶不燃・粗大ごみ処理施設 破碎・選別式 10t/5時間</li> </ul>



町田市バイオエネルギーセンターの全貌がわかる模型

生ごみは、家庭でコンポストなどで減量された後、可燃ごみとして収集し、そこから分別し資源化します。

不燃・粗大ごみ処理施設では、まず手選別で硬質プラスチック類や小型家電など資源として再利用できるものを取り出し、次に高速回転粉碎機で1辺15cm以下に破碎した後、選別機で鉄やアルミなど金属資源を回収しています。このように資源化できるものを徹底して回収し、残渣は可燃ごみとして処理されます。

### 楽しく学べる見学ルート

見学ルートは、管理棟からバイオガス化施設まで、施設に沿ってほぼ一直線。管理棟では映像や模型でセンターの概要がわかります。また、年表により町田市が市民とともに歩んできた歴史が紹介されています。

広い管理棟では、右手にガラス面が連続する明るい廊下を進み、不燃粗大ごみ処理施設、熱回収施設を左手に見学しながら、最後にバイオガス施設を一回りして戻ってくるルート設定で、歩く距離は長いですが、見学だけでなくクイズやエアカーテンの効果、蒸気復水器のファンの風体験など、さまざまに工夫されたコーナーがあります。バイオガス化施設では、首都圏初のバイオガス発電のしくみと効果が、メタン菌のキャラクターを使い、わかりやすく解説されています。



首都圏で初めて建設されたバイオガス化施設

また、市民の生活環境に配慮した施設も整備されており、会議室や多目的室(調理)、和室も用意されており、回収された家具類の展示販売のスペースもあります。壁面に町田市内の小学生から募集したカルタや「町田市のごみと暮らしの歩み」(年表)、工場模型も展示されており、館内の巨大さを実感できるような工夫もすばらしかったです。

バイオエネルギーを取り出すためには、生ごみと紙類などの分別も大変重要なことでしょうし、施設の職員からは、リチウムイオン電池による不燃・粗大ごみ処理施設での大きな火災が発生した事故についてもうかがいました。

職員の方から、武蔵野市のクリーンセンターが市のど真ん中に設けられたこと、建て替え後もリチウムイオン電池による発火事故対策で多くの困難を乗り越えてきたことに対してリスペクトのお言葉もいただき、とても感動しました。

### みどり環境

敷地全体の広さは、武蔵野市クリーンセンターの敷地(1.7ha)の約4.5倍(7.7ha)の広さです。旧焼却施設がある敷地北側は、取り壊し後、緑の広場として整備され、2024年に公開される計画です。

武蔵野市に比べて、とても大きな施設ですが、周辺には多摩丘陵の緑があるため、施設内のみどり環境の整備にはメリハリがあります。

建物内では各所に、スカイテラス(屋上緑化)、エコボイド(壁面緑化)など完成度の高いみどり施設が施されています。一方、建物まわりは、形状の小さい苗木が植えられ、開放的な空間です。

管理棟前のゲートパークやフットパスルート(散策路)から多摩丘陵の緑が遠望されます。敷地が広く施設が大きいことや、周辺に豊かな緑が存在することから、苗木から土地の環境に慣らしながら、周辺と違和感のないみどりを育てていく緑化手法をとっていると思いました。



スゴラボ(バイオガス発電機)。発酵槽の中を再現した空間の中で、バイオガス発電のしくみと効果を楽しく学べます。

### 日本丸メモリアルパーク(横浜みなと博物館)

午後は、横浜みなとみらい21地区にある横浜みなと博物館を見学しました。平成元(1989)年に横浜港開港130周年を記念してつくられた博物館で、リニューアルオープンした初日の訪問でした。

博物館は、横浜ランドマークタワーの海側に地下に埋まった扇形の建物としてつくられ、屋根部分は海を臨む芝生斜面になっています。ランドマークタワーとの間には、石造りの第一号ドックが保存され、ここに係留されている帆船日本丸とともに国指定の重要文化財です。博物館の曲面の窓から、ランドマークタワーと日本丸の姿が楽しめます。

横浜港の築港の歴史から現代の役割までが、映像や模型などでわかりやすく紹介されています。横浜は、関東大震災で大きく被災し、その瓦礫を埋め立てたのが山下公園です。「関東大震災と復興」というブースを興味深く拝見しました。

リニューアルしたコンテンツは、体験型のVRシアターやシミュレーターなどですが、展示内容は、とても1時間半では見切れない豊富さで、さらに柳原良平アートミュージアムもあり、後ろ髪を引かれる思いで施設をあとにしました。



日本丸メモリアルパーク(横浜みなと博物館)の入り口